RMServer：リモートモニタリングサーバー

thinking sound Meyer Sound

RMServerは、RMSをEthernet経由で実行するコンパクトなハードウェアユニットです。Compassを実行するコンピュータとスピーカーキャビネットの間に配置され、RMServerの2つのFT-10ポートは最大50台のRMSスピーカーまたは12台のMPS-488HPパワーサプライに接続できます。各MPS-488HPは8つのスピーカーを駆動するため、1台のRMServerはRMSオプションが搭載されたMPS-488HPに接続された96台の48Vスピーカーを監視できます。

RMServerはシステム・コンフィギュレーションを内部に保存するため、手作業によるデータ入力がほとんど不要になります。システムは、F.O.Hや舞台裏のノートパソコンから、あるいはエンジニアやシステム技術者が会場内を移動する際にタブレットコンピューター経由でモニタリングすることができます。RMServerは、システムに問題が発生した場合にEメールでアラートを送信するため、Compassが稼動していないときでも、システムがモニタリングされているので安心できます。

RMSをCompassコントロールソフトウェアに組み込むことで、GalileoまたはCallistoプロセッサーとCALスピーカーのコントロールからCompassRMSによるリモートモニタリングまで、すべてのシステム管理ツールを手元で操作できるようになります。

各スピーカーは内部で独自のIDを保存し、RMServerはシステム・コンフィギュレーションを保存するため、CompassでのRMSシステムのセットアップは素早く簡単です。

特徴と利点

- アンプ、ドライバー、リミッター、冷却、および障害アラートに関する広範なリアルタイムのスピーカーフィードバック
- オープンスタンダードに基づくイーサネットベースの制御および通信
- 既存のRMS搭載MeyerSoundスピーカーとの下位互換性
- CompassソフトウェアでRMServerを制御および設定
- Compassソフトウェアにより、個々のスピーカーまたはスピーカーのグループをミュートおよびソロにすることが可能
- CompassソフトウェアからのWinkとIDコントロールにより、システム全体のどのスピーカーでも簡単に位置を特定可能
- スピーカーのRMSモジュールはツイストペアケーブルを使用して簡単にネットワークに接続可能
- Compassが接続されていないときでもEメールで通知

RMServer 仕様

コントロール		
RMS FT-10ネットワーク	ロジック入力	Pheonix6ピンのメスコネクタ、外部ミュート用の接点クロージャを受信するためのオプティカル縁入力2つ。
	ロジック出力	Phoenix 6ピンオスコネクター、外部ミューティングおよび/または故障レポート用にリレーのクローズ(およびオープン)を報告
イーサネットネットワーク	接続	2芯ツイストペアネットワークを装備し、Compassソフトウェアを実行するシステム・オペレーターのホスト・コンピューターにアンプの全動作パラメーターを報告(最大50ノード)。データスピードは78Kbpsシリアルバスです。
マウンティング		ネットワーク接続およびオンボードウェブサーバーのコントロール用にMacまたはWindowsベースのコンピューターからのRJ-45ポートが装備されています。クライアントサーバーアーキテクチャー内でMeyer SoundのCompass制御ソフトウェアとの完全な双方向通信をサポートします。IPv4およびIPv6を同時にサポートします。IEEE 802.1、802.3準拠。1つのMACアドレス。
ネットワーク/コントロール		取り外し可能な脚が含まれています。 オプションにラックマウントキットがあります。 オプションのウォールマウントキットがあります。
AC電源	フロントパネル	故障、クライアント接続、RMS FT-10用の点灯式LEDインジケーター
	ネットワーク	RJ-45ポートがネットワーク接続とオンボードウェブサーバーのMacまたはWindowsベースのコンピュータからの制御のために装備されています。クライアントサーバーアーキテクチャー内でMeyer SoundのCompass制御ソフトウェアとの完全な双方向通信が行えます。
	プロトコル	IEEE 規格 802.3 (100BASE-TX) RFC 791(IPv4) RFC 6434(IPv6 ノード要件) RFC 3927(IPv4 リンクローカルアドレスのダイナミックコンフィギュレーション) RFC 6763(DNS ベースのサービス検出) RFC 2616(HTTP/1.1) IEEE Std 1722.1-2013(ADPおよびAECP AEM)
	ソフトウェア	クライアントサーバーアーキテクチャーで、Meyer Sound社のCompassコントロールソフトウェアとの完全双方向通信が可能。
外観	コネクター	powerCON 20
	動作電圧範囲	100-240 V AC、50/60 Hz、30W 最大
	消費電流	0.2A rms (115 V AC); 0.13 A rms (230 V AC); 0.3 A rms (100 V AC)
	サイズ	1Uラック、1/2幅、幅8.50インチ x 高さ1.73インチ(脚を含めると1.85インチ)x 奥行き7.23インチ (215.9 mm x 44 mm [脚を含めると46.9 mm] x 183.6 mm)
	重量	3.78 lbs (1.71 kg)

N775

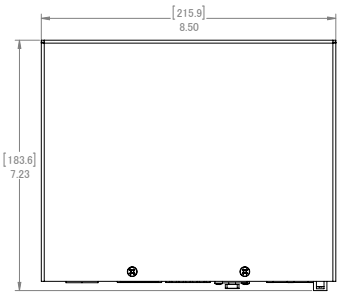
RMServer 04.222.004.01 A

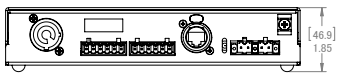
Copyright © 2013
Meyer Sound Laboratories Inc.
All rights reserved

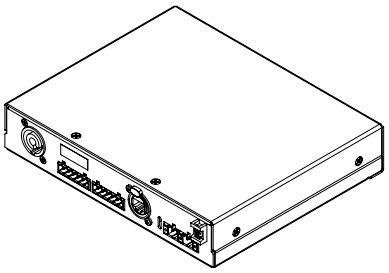
MEYER SOUND LABORATORIES INC.
2832 San Pablo Avenue
Berkeley, CA 94702

T: +1 510 486.1166
F: +1 510 486.8356

techsupport@meyersound.com
www.meyersound.com







使用構造

完全なリモートモニタリングシステムは、クライアントサーバーアーキテクチャーに基づいており、独立したリモートモニタリングサーバーデバイスがFT-10対応のスピーカーデバイスを接続し、監視します。これはEthernetネットワークに接続され、Compassソフトウェアで制御されます。リモートモニタリングサーバーはRMServerと呼ばれます。

RMServerは、MacまたはWindows上でCompassを実行するコンピューターと、RMSモジュールを搭載したスピーカーを接続するシステムの中心的な構成要素です。

RMServerはコンピュータに直接接続することも、複数のユニットが必要な場合はネットワークスイッチに接続することもできます。イーサネット接続により、ホストコンピュータはRMServerをリモートコントロールすることができます。

RMServerには2導体ツイストペアネットワークが装備されており、アンプのすべての動作パラメーターをCompassを実行しているホストコンピューターに報告します。各RMServerは、RMSモジュールを備えた最大50 個のシングルノードアクティブスピーカー、25個のデュアルノードアクティブスピーカー、または12個の MPS-488HPリモート電源をサポートできます。

RMServerは、外部ミューティング用のコンタクトクロージャーを受信するための2つのオプティカル絶縁入力を備えた6ピンのPhoenixコネクタ1つと、外部ミューティングおよび/または故障レポート用の2つのリレーコンタクトを備えた6ピンのPhoenixコネクタ1つを内蔵しています。リレー接点は、ノーマルオープン(NO)またはノーマルクローズ(NC)として配線できます。

ユニットのフロントパネルには、埋め込み型のリセットボタン、故障、RMS TP/FT-10受信、クライアント接続、イーサネット、電源の LED インジケーターがあります。
本機は0.5スペース、8.5インチラックマウント、奥行き7.23インチ、重量3.78ポンドに収められています。取り外し可能な脚付きです。オプションのラックトレイにより、RMServerを機器ラックに設置することができ、壁掛けキットも利用できます。ACインレットはpowerCON20です。

ArtWiz
http://artwiz.jp
株式会社アートウィズ
〒134-0003 東京都江戸川区春江町5-11-2
Tel : 03-5667-9682